

えちぜん鉄道株式会社 三国芦原線 において発生した
鉄道事故（踏切障害事故）調査について
（経過報告）

令和3年10月28日
運輸安全委員会（鉄道部会）

運輸安全委員会は、令和2年11月15日、えちぜん鉄道株式会社の^{みくにあわら}三国芦原線において発生した鉄道事故（踏切障害事故）について、令和2年11月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、更に一定の時間を要する状況である。このため、本件調査については、本事故が発生した日から一年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本件鉄道事故に関し、運輸安全委員会設置法に基づき、運輸安全委員会により鉄道事故の原因を究明し、事故の再発防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行われているものであり、本事故の責任を問うために行われたものではない。

1. 鉄道事故の概要

えちぜん鉄道株式会社の^{えちぜんたけふ}越前武生駅発^{わしづかほりぼら}鷺塚針原駅行きの下り第1113R列車の運転士は、令和2年11月15日（日）、^{なかつの}中角駅～鷺塚針原駅間を速度約60km/hで走行中、中角踏切道（第4種踏切道）の約50m手前で、進行方向左側から同踏切道に進入してくる軽貨物自動車を認め、直ちに気笛を吹鳴するとともに非常ブレーキを使用したが、列車は同自動車と衝突した。

2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和2年11月15日、本事故の調査を担当する主管調査官ほか1名の鉄道事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、運転状況の記録の分析等を実施した。

3. 判明している主な事実情報

（1）運行の経過

下り第1113R列車の運転士は、^{にったづか}新田塚駅を定刻（12時05分）より約2分遅れて出発、中角駅を通過後、中角踏切道の約150m手前で同踏切道に接近する軽貨物自動車を認め、気笛を吹鳴するとともにブレーキを使用したが、同自動車が同踏切道の停止線付近で停止したため、気笛の吹鳴を止めブレーキを緩めた。しかし、同踏切道の約50m手前に来た

とき同自動車は再び動き出すのを認めたため、気笛を吹鳴するとともに非常ブレーキを扱った。

(2) 死傷者

死亡 1名（軽貨物自動車の運転者）男性 86歳

(3) 鉄道施設、車両の損傷

- ① PCまくらぎに、軽貨物自動車が引きずられたと見られるゴムタイヤの痕跡。
- ② 鉄道車両の損傷は軽貨物自動車と衝突した車体前方下部に集中し、前面ガラスの右下部分が破損。
- ③ 軽貨物自動車は車体右側の中心部が押しつぶされるように大きく凹み損傷。

(4) 気象

晴れ

4. 今後の調査

本鉄道事故調査の原因の究明及び事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報を基に更なる事実確認や分析を行う必要がある。

運輸安全委員会は、引き続き、分析等によって得られた結果を踏まえて、本鉄道事故の原因等の調査を進める。